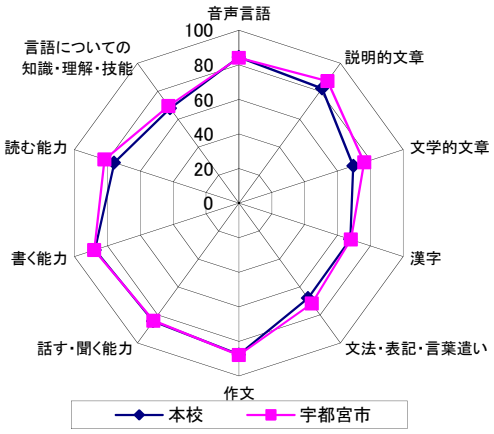
宇都宮市立瑞穂野中学校第３学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	音声言語	84.5	84.1
	説明的文章	82.0	87.3
	文学的文章	69.6	76.3
	漢字	67.7	68.1
	文法・表記・言葉遣い	67.9	71.8
	作文	87.7	88.0
観点別	話す・聞く能力	84.5	84.1
	書く能力	87.7	88.0
	読む能力	75.8	81.8
	言語についての知識・理解・技能	67.8	69.4



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
音声言語 (84.5%)	平均正答率は80%を上回っており、宇都宮市の平均よりもやや上回っていて、全体的に優れた結果となっている。	出題内容別では「事実と意見の関係の聞き取り」「話し手の立場の聞き取り」で87%台であり，観点を決めて聞く学習が必要と考える。
説明的文章 (82.0%)	平均正答率は80%を上回っているが、宇都宮市の平均よりも約5%下回っている。文脈に即した内容の理解が苦手であると思われる。	「文脈に即した内容の理解」「段落の趣旨」の問いに対する正答率は30%を下回っており，文章をまとまりとしてとらえさせる学習をさせたい。
文学的文章 (69.6%)	平均正答率は70%をやや下回り、宇都宮市の平均よりも約7%下回っている。文学的文章の読み取りがかなり劣っているようである。	「登場人物の心情」に関する設問以外は高い正答率であるため，心情描写の部分を中心として，登場人物の言動など心情にかかわる叙述に視点を当ててとらえる学習が必要である。
漢字 (67.7%)	平均正答率は70%をやや下回り、宇都宮市の平均よりも若干下回っている。漢字の読みに関する設問では，97%以上の正答率であるが，漢字の書き取りは正答率が約50%と極端に低い。	漢字の書き取り練習が不足している。授業の中で新出漢字の学習を十分に行うことが必要である。意味調べや熟語集め、短文作りなどの学習活動も有効と考える。
文法・表記・言葉遣い (67.9%)	平均正答率は70%を下回っており、宇都宮市の平均よりも約3%下回っている。「同音異義語の識別」や「敬語の使い方」に関する設問では84%を越える正答率であるが，「用言の活用」に関する設問では50%を下回っている。	文法に関する学習に苦手意識を抱いている生徒が多く，「用言」のみならず，文法全般において，主体的に学習できるような工夫が必要である。学習事項を整理させ多くの練習問題に取り組ませたい。
作文 (87.7%)	平均正答率は80%を越えているが、宇都宮市の平均よりも若干下回っている。自分で文章を組み立てていくことが苦手である。	物語づくりなどには意欲を示すが漢字や語句の利用について十分ではなく，完成度を高めるように他の領域と関連させながら学習させたい。